リンちゃんとダーリンの大冒険

魔菜とリンちゃん、先生になる

作：たかみや このか

RINDA
PUBLISHING
BOOK STORE

リンちゃんとダーリンは、地球に住む人や生き物を幸せにするという言い伝えの「魔法のコイン」をさがしに旅に出ました。

今回やってきたのは、“エーデル”と呼ばれる　自然がいっぱい広がっている原っぱです。
お花がたくさん　さいていて、リンちゃんもダーリンもうれしそうです。

ここなら、なんだか魔法のコインがありそうです。

そんな原っぱの空の上に、大きな雲があり、そこには、女の子と男の子と女の子のあいぼうの「ちびっこラビット」がくらしていました。

ちびっこラビットは、女の子のかたに　のっています。

女の子の名前は「魔菜」で、男の子は「あっくん」。

魔菜は魔女なのですが、頭には、キケンをさっちするための　角が生えています。
そして背中には空をとぶための羽がはえていて、羽で空をとぶことに つかれた時は、魔法のつえが、空とぶほうきになります。

そんな魔菜たちがくらす雲の下には、“エーデル”がありました。

“エーデル”には、自然を愛する人しか入れません。

魔菜は空の上から、いつも地上のようすを見て、自然がとてもへっていると感じていたので、魔菜がそういう魔法をかけたからです。

そんな雲の上では、あっくんがおやつのケーキをたべようとしていました。
くいしんぼうのあっくんが、ケーキを大きくしようとして魔法をかけたとき、まちがって雲が小さくなってしまい、そこにいた魔菜とちびっこラビットが、地上にある“エーデル”に落ちてしまいました。

女の子が空の上から目の前に落ちてきたので、リンちゃんとダーリンは
びっくりしましたが、魔菜がケガもなく大丈夫なのを知ると、お話をはじめました。

リンちゃんとダーリンが「魔法のコイン」をさがしに、“エーデル”に来たことを知ると、魔菜もいっしょにさがしてくれることになりました。

まずは、一本のホウキに魔菜とリンちゃんとダーリンがまたがって、ちびっこラビットは魔菜のかたに　とびのりました。そして、空をとんで、さがしはじめました。

リンちゃんは、
「世界って、とっても広いんだね！」
とおどろきました。

それを聞いた魔菜は、
「でも、いいことばっかりじゃないのよ。
世の中には、苦しんでいる人がいっぱいいるんだから。」
と、少し、悲しそうにしています。

「だったら、なんとかしようよ！」

「でも・・・どうするの？
魔法は一日に一回だけしか使えないし・・・」

するとリンちゃんは、とても力のある声で

「魔法に　たよっちゃだめだよ！
人は、自分を信じる勇気で生きていくの！」
と答えました。

その言葉を聞いた魔菜は力をもらい
「ねぇ、リンちゃん！あなたにいっしょに来てほしいところがあるわ！」
と力強く言いました。

二人と二匹は原っぱをこえ、森をこえ、とある　大きな町につきました。

「じつは、ここにいる子どもたちは、勉強がとても苦手だったり、
いじめられたり、耳が聞こえづらくて苦しんでいることが多いの。
魔法でカイケツしてあげたいけれど、
人のために使える魔法は、一日に一回だけ。

RINDA PUBLISHING BOOK STORE

だから、リンちゃん、手伝って！！」

そういって、二人と二匹は、困りごとをかかえた子どもたちのいる学校に入りました。

最初に向かったのは、校長室です。

（ガラガラガラ・・・）
「校長先生！私たちが、この学校の教師になってもいいでしょうか？」

急に入ってきた二人の女の子に　おどろくようすもなく校長先生は、
ただ二人の顔を　じーーーっと見ていました。

しばらくしてから、こう答えました。

「君たちは、何がしたくて、教師になりたいのかな？」

「私たちは、苦しんでいる子どもたちを、笑顔にしたいのです。
だから教師になっていいでしょうか？」

自信にあふれた力強い声で答える二人に、校長先生は、ゆっくりと答えました。

「そうかい！では、君たちにまかせてみよう！」

こうして教師になった魔菜とリンちゃん、そして、そのお手伝い役となったちびっこラビットは、教室の中に入って、子どもたちに　いろんなことを教えはじめました。

たとえば、耳が聞こえにくい子どもたちには、聞こえる声で、ゆっくりとていねいに話してあげたり・・・

勉強が苦手な子どもたちには、わからないことが出てきたら、
どんなことでも、そして、いつでもシツモンをして良いようしてあげたり、
勉強が楽しいとおもえる　教え方をしたりして、よりそってあげたり・・・

思いつくことを、たくさんしてあげました。

RINDA PUBLISHING BOOK STORE

そして、ちびっこラビットは、べん強に　ひつような　道具をもってきたりして、お手つだいをしました。

すると、これまで耳が聞こえづらくて、
コミュニケーションがとりにくかった子どもたちは、
ゆっくりとていねいに、聞こえるように話してもらえることで、
おたがいに　わかりあえるようになって、笑顔になりました。

勉強に苦手があった子どもたちは、
自分のそばに　よりそってくれる人がふえて安心し、
これまでは苦手だったのに、わかることが楽しくなりました。

教室には、たくさんの笑顔と笑い声が　あふれていました。

すると今まで静かにしていた犬のダーリンが、
急に　ろう下の方を見て、ほえました。

ろう下をみると、そんな様子をそっと見ていた校長先生が
にっこりと笑って　立っていました。

こうして、この学校では、困りごとがなくなって
みんなを笑顔にすることができました。

そして、あんしんして　仕事をおわらせた二人と二匹は、校長先生と子どもたちと別れました。

帰る途中、リンちゃんが
「私、コインをさがしてくるね」
と言うと、魔菜が
「まって。私、こう思ったの。
本当に大切なものは、目に見えない、人それぞれの思い合う気持ちが
キラキラ光る　魔法のコインなんじゃないかな。」

リンちゃんは
「・・・そうだね！ありがとう！」
と返しました。

リンちゃんとダーリンは、魔法のコインをさがしにきたけれど、
ここではみつけることはできませんでした。

本当に大切にしたいことや大切なものは、魔菜の言うとおり、目に見えません。

魔菜とちびっこラビットに出会い、困っている子どもたちを助けるために
いっしょに力をあわせたことで、リンちゃんは
目に見えないものを大切にしたいと強く思いました。

とても幸せな気持ちです。

ここでは困りごとを解決することができたけれど、
地球をみわたすと、まだまだ困っている人や生き物がたくさんいます。

リンちゃんとダーリンの旅は、これからも　つづきます・・・。

RINDA
PUBLISHING
BOOK STORE

RINDA
PUBLISHING
BOOK STORE

RINDA
PUBLISHING
BOOK STORE

魔菜

甲華さん、あなたはとても幸せな、おばあさんになっています。そんなあなたを想像してみてください。

Q1:何才になった自分を思い浮かべましたか？

A1:72 才

Q2:72 才のあなたは、これまで、どんなことをして幸せになりましたか？

A2:72 才の私・・・。私は、仕事に教師を選んだことがラッキーだったわ。私はとにかく相手の気持ちになって、「その人がどうして欲しいか」を考えることがとても好きなのね。

例えば体が不自由だったり、勉強が苦手だったり、そういう何かに不自由を感じる人が世の中にはいるでしょ？

そういう子どもたちの気持ちになって、耳が聞こえにくい子どもであれば、ゆっくりと、そして聞こえるように話してあげたり、勉強が苦手な子どもであれば、苦手と思わせないで、その子が好きになるようなことを考えて教えてみたり。とにかく、私は、たくさんの子どもたちを幸せにしたわよ。人数で言ったら、3000 万人くらいかしら！

私は、とっても幸せよ！

RINDA PUBLISHING BOOK STORE

作 ● 高宮甲華さん

2012年東京都生まれ。
生後2ヶ月からコーポラティブハウス（入居予定者が主体となって全ての建設行為を行う集合住宅）に暮らし、地域のコミュニティに見守られて育つ。様々な大人とのコミュニケーションのある生活の中で、自然と持ち前の社交性と創造性に磨きをかける。
旅行好きの両親の影響で、生後6ヶ月でパスポートを取得して、アメリカ、ベトナム、タイ、台湾、フィリピンなどの国々を旅し、広い世界に興味を持つ。コロナ禍では、オンラインで演劇やダンスに挑戦し、自己表現の楽しさに開眼。8年間の人生経験をフル活用し、今回物語づくりに挑戦しました。将来の夢は俳優。

● STAFF

編集　有川 凛

メンターコーチ　鵜川洋明
伊東峻志

RINDA foundation JAPAN （since 2018～）がこの本を作りました。

私たちは、子どもたちが主体となって自由な発想を広げ身のまわりや地球の困りごとについて、みんなが「笑顔」になれる活動をしています。
これからの未来を担う世界中の子どもたちとともに、人々が健康にくらせる持続可能な社会の実現に貢献すること、そして笑い声を常に聞くことができることを目指しています。

3つのE

EDUCATION（教育・共育）
EQUITY（公平さ）
ECOLOGY（エコ）

「3つのE」への取り組みを通じて、だれもが自分の価値を認め、「生きやすさのイコール（自分らしく生きられる世界）」を作ることをミッションにしています。

代表理事　有川 凛

有川 凛

1974年京都生まれ。社会が抱える問題解決や社会的価値の創出をはかるため、株式会社らしゅえっとを立ち上げる。
企画開発した除菌水「ましゅっしゅ」が、2年連続キッズデザイン賞を受賞し、注目を集める。子育ての経験やアジアへの旅で出会った貧しい人々への衝撃が、世界の子どもたちの「笑顔・健康」を生み出す行動の舵を切るきっかけとなる。
現在、一般財団法人RINDA foundation JAPANの代表理事として、また二人の男の子の母親として毎日を過ごしている。

リンちゃんとダーリンの大冒険

魔菜とリンちゃん、先生になる

2021年3月21日　初版発行

作　高宮甲華

発行者　有川 凛
発行所　RINDA PUBLISHING
〒182-0002 東京都調布市仙川町3-5-14-402
TEL　03-5969-8556 https://rinda-f.org
印刷・製本所　RINDA PUBLISHING

©2021 RINDA PUBLISHING, Printed in JAPAN
乱丁、落丁本はお取り替えいたします。本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写（コピー）することは、かたくお断りいたします。

SMILE認証について

SMILE認証は「社会貢献ブランド」です。
RINDA foundation JAPANが定める条件に見合った商品（サービス）、イベント、プロジェクトにSMILE認証が付与され、代金の一部が「思いやり」の気持ちとして当財団のスマイル基金に積み立てられます。
積み立てられた基金は、RINDA foundationで活動する子どもたちが選び出した支援先に届けられる仕組みです。

RINDA PUBLISHING BOOK STORE

『世界をぐるり！こども絵本リレープログラム』は
こんな思いをのせて、誕生しました。

「人は幼少期に自分自身の人生脚本を描くと、その通りになる」

カナダ出身の心理学者エリック・バーンの言葉です。
幼少期につくられる人生脚本の多くは、周りの大人、特に権威となる親や先生からのメッセージが無意識の中に書き込まれ、無意識のうちに生き方を決め、それに従い行動をすると
エリック・バーンは語ります。

そうであるならば、

「人生脚本を、子どもたちのWant-toにフォーカスして子どもたちが創造していくプログラムがつくれないものだろうか？」
「無意識に植え付けてしまっている『制限事項』を取り払って、子どもたちの人生脚本をよりよい脚本に変化させていくことができたら……」

その思いから『世界をぐるり！こども絵本リレープログラム』を立ち上げました。

このプログラムは、リンちゃんとダーリンというコンビが
『地球を助けるために魔法のコインをさがしにいく』というゴール設定のもとに、
プログラムに参加する子どもたちがまず最初に自分自身を投影したキャラクター（アバター）を創作し、自分が主人公になる一話完結の冒険物語を作り、次の子どもへとリレー方式で紡いでいくものになっています。

冒険好きの子どもたちの想像力をかき立て、自分たちが息づく大地である「地球」の今を、
それぞれが見つめ、気づいていけるように紡いでいきます。

絵本づくりの過程で自分は一体何者なのか？
どういった未来を描き、どのように考え、どのように動くのか？
をデザインしていくわけですから、それはまさに「人生脚本」そのものです。

単なる「お話づくり」「絵本づくり」にとどまらず、
その子自身の無意識の中に、よりよい物語（人生脚本）をつくりあげていくこのプログラムは、
私たち大人がこれからの時代を創造していく子どもたちに遺してあげられる「大きなギフト」のひとつになるはずです。

そして、その記念すべき第一話がこの『魔法のコインをさがしに』です。
この絵本を手にした子どもたちが
「今度は自分を登場させて、どんな役で、どんなふうに生きようか！」
と、次々に小さな種を落とし、主体的に大きな木になっていく姿、花を咲かせ、実をつけていく様子を、想像するだけでも、幸せな気持ちになります。

SMILE
～Sharing Miracle In Life Everyday～

一般財団法人RINDA foundation
JAPAN 創設者
有川 凛

RINDA
PUBLISHING
BOOK STORE